

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	402
担 当 教 員	大谷順 杉山章 専任教員	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
循環器・消化器・代謝・内分泌関連疾患の病態、治療法、予後などを総合的に学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床工学技士標準テキスト						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行い各単限の理解度を上げておく						
《履修に当たっての留意点》						
わからないことをそのままにせず、各単限は必ず理解しておく						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	診断や治療方針などを理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	特になし	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、外科学概論 診断・治療			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	侵襲反応やショックについて理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	外科学概論 侵襲反応・ショック			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	手術の基本手技などを理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	外科学概論 手術・基本手技			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	術前管理について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	術前管理			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	術中管理について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	術中管理			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	術後管理について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	術後管理		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	術後合併症について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	術後合併症 ①		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	術後合併症について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	術後合併症 ②		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	外傷について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	外科学概論 外傷		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	移植について理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	外科学概論 移植		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	栄養管理に関して理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	外科学概論 栄養		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	麻酔の方法などを理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	外科学概論 麻酔		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	輸血についての理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	外科学概論 輸血		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	感染症に関して理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	感染症 ①		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	感染症に関して理解し説明できる	臨床工学技士標準テキスト	前回の復習と次の単限の予習をしておく
		各コマにおける 授業予定	感染症 ②		